

編集後記

第13号は、年内に発行することが辛うじてできた。これまで各年度の後半に発行されるものは3月の終わりに出されていた。しかし、今年度から、1月中には発行し、配布もしたいと考えたが、何とか実現できたのは、センターのメンバーの熱意のお蔭である。内容もバラエティに富み、特に、西村靖史さんの記事は、自然科学と社会科学を架橋するものとして興味深い。こうしたメンバー外の記事を今後も歓迎し、内容を豊かにしていきたい。